

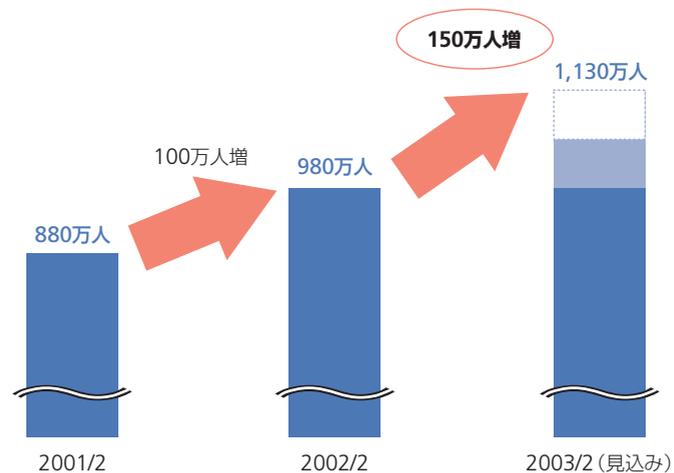
## 第22期 中間事業報告書

2002.2.21 ~ 2002.8.20



「サティ・ビブレカード」の発行をはじめとする営業フィールドの拡大により、会員拡大を加速させてまいります。

カード会員数の推移



## 目次

トップインタビュー	2
国内ハイライト	5
海外ハイライト	7
トピックス	9
中間連結財務諸表の概要	13
中間単独財務諸表の概要	15
株式の状況	17
会社データ・株主メモ	18



## トップインタビュー



代表取締役社長  
森 美樹

**Q1** 当中間期の結果についてお聞かせ下さい。

おかげさまで当中間期の連結決算業績は、営業収益482億71百万円(前年同期比18.8%増)、経常利益114億71百万円(前年同期比11.4%増)、中間純利益59億71百万円(前年同期比24.4%増)となりました。また単独決算業績は、営業収益355億59百万円(前年同期比18.3%増)、経常利益98億81百万円(前年同期比23.1%増)、中間純利益55億81百万円(前年同期比37.6%増)と、連結・単独決算業績いずれも中間期における過去最高益を更新することができました。厳しい経営環境の中で、順調に業績を拡大できたことは、加盟店さまとの共同企画をはじめとする当社の取り組みがカード会員さまにご支持された結果であり、大変感謝いたしております。ま



た、新たな取り組みとして、「サティ・ビブレカードの発行」や「台湾でのクレジットカード会社設立」など、将来に向けた取り組みができております。

## Q2 御社を取り巻く事業環境についてお聞かせ下さい。

先ほども申し上げましたとおり、長引く個人消費の低迷、失業率の高止まりによる自己破産の増加など、当社を取り巻く事業環境は引き続き厳しいものと認識しております。なかでも、自己破産の増加による貸し倒れの状況には特に注意を払わねばならないと考えております。当社では、店舗を通じた会員募集による優良顧客の囲い込みや初期督促業務を3ヶ所の債権管理センターに集中させるとともに、延滞債権に関しましては地域特性にあわせてきめ細かい対応をしておりますので、厳しい

環境ながらも良質な債権の確保に努めております。また、下期におきましては新審査システムの導入を行い、与信管理機能の強化に努めてまいります。

## Q3 コーポレート・ガバナンスに関する施策についてお聞かせ下さい。

昨今では、企業の不祥事が、企業ブランドを失墜させ、直接業績に影響を及ぼすといった事態が発生しております。当社としましては、1,000万人を超える会員さまの大切な個人情報をお預かりしておりますので、これらをしっかりと守り、会員さまの信頼に応え続けていかねばならないと、身の引き締まる思いを強く感じております。その様な意味も含めコーポレート・ガバナンスの強化を目的とした専任部署として、法令遵守状況を内部検査し改善指導する「検査室」、全従業員への遵法意

識の徹底やISO9001を活用した品質の向上を推進する「品質管理室」、会員さまの声を収集し、経営に反映させる「お客さまサービス推進室」を設置しております。

加えて当期は、プライバシーマークの認証取得に取り組み、クレジット会社の社会的責務である個人情報の保護に万全を尽くしてまいります。

## Q4 下期の取り組みについてお聞かせ下さい。

下期では、加盟店さまとの共同企画を継続的に実施し、カード取扱高の拡大を図るとともに、営業フィールドの拡がりにあわせ、会員募集をさらに強化してまいります。

取扱高の拡大に対応するため中期的な計画で取り組んでおりました事務集中センターは、東京、

大阪に加え、新たに中部地区(三重県四日市市)にコールセンター、債権管理センターを開設し、事務集中センター3ヶ所体制にて、規模の拡大への対応とリスクの分散を図り、会員さまサービス及び生産性の一層の向上を進め、業務の効率化をすすめてまいります。

海外事業の展開に関しては、香港、タイに続き、台湾でのクレジットカード発行を目指してまいります。また、新たな地域での事業開始に向けた調査を進めてまいります。

下期におきましては、これらの事項に着実に取り組み、株主の皆さまのご期待にお応えできるよう、邁進する所存でございます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、この場をお借りいたしまして、お願い申し上げます。

## タイ現地法人の躍進

2001年12月にタイ証券取引所に株式上場を果たしたAEON THANA SINSAP (THAILAND) PLC.は、上場による知名度向上を活かし、更なる業容の拡大に取り組んでおります。



イオンクレジットサービス(タイランド)(AEON THANA SINSAP (THAILAND) PLC.)は、地域に密着した営業活動を行うため、地方都市への営業展開を加速し、バンコク市内13ヶ所、地方都市32ヶ所の営業ネットワークを構築いたしました。当中間期では、このタイ全土に展開した営業ネットワークを活用し、地域に密着した加盟店・CDネットワークの拡大に継続して取り組むとともに、大手加盟店とのセールスプロモーションやMASTER、JCBとのタイアップキャンペーンなど提携先との共同企画を実施した結果、取扱高は大幅に増加いたしました。

会員拡大への取り組みとしては、タイ最大手のサハパタナグループ7万人の従業員を対象とした職域カードの発行を開始したことにより、13万人増の68万人に会員数を拡大することができました。

また、タイ証券取引所上場による企業信用力の向上を活かし、3年物の無担保普通社債10億タイバーツを調達いたしました。

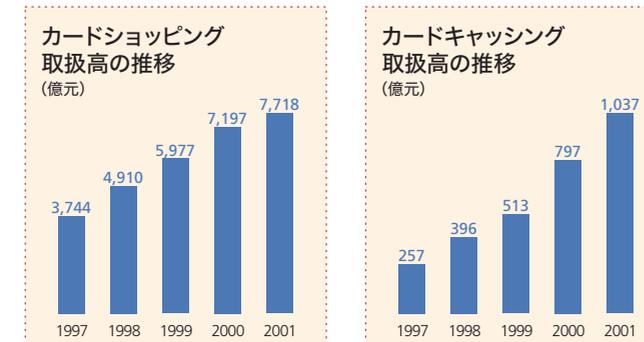
このような業容拡大により、営業収益は、1,601百万バーツ(前年同期比68.1%増)と大幅に拡大しております。

今後も、地域に根付いた営業活動に取り組み、営業拠点、加盟店、CDネットワークの拡大に継続して取り組んでまいります。

## 台湾にクレジットカード会社を設立

当中間期の8月、台湾に現地法人「AEON CREDIT CARD (TAIWAN) CO., LTD.」を設立いたしました。

### 台湾クレジットカード市場の推移



台湾での個品あっせん事業

台湾で1999年より個品あっせん事業を展開しているイオンクレジットサービス(台湾)(AEON CREDIT SERVICE (TAIWAN) CO., LTD.)におきましては、加盟店ネットワークを1,384店に拡大し、取扱高を着実に増加させることができました。

この結果、営業収益は19百万台湾ドル(前年同期比30.0%増)となりました。

また、当中間期の5月、台湾 財政部より日系企業として初めてクレジットカード発行ライセンスを取得することができ、同8月にクレジットカード事業を展開するイオンクレジットカード(台湾)を設立いたしました。

今後は、11月からのVISA、MASTER、JCBといった

国際ブランドとの提携カード発行に取り組んでまいります。併せて、イオンをはじめ日系企業との提携、地元小売業などの開拓に取り組むとともに、これまで、個品あっせん事業で培ってまいりましたノウハウ、事業基盤を活かし早期に会員組織を拡大させてまいります。

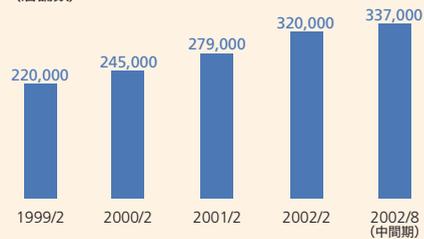
### 【台湾クレジットカード市場の規模】

(資料：National Credit Center of ROCより)

- 人口：22,440千人(2002年6月現在)
- カードショッピング取扱高 7,718億円(2001年現在)
- カードキャッシング取扱高 1,037億円(2001年度現在)

## 加盟店の推移

(店舗数)



## CD・ATM設置台数の推移

(設置台数)



事務集中センター

## 営業ネットワークの拡大

加盟店ネットワークにつきましては、(株)マイカルが大きく加わったほか、継続的カード決済が見込める

(株)NTTドコモや(株)近鉄百貨店、(株)阪急百貨店、ワタミフードサービス(株)などの大手加盟店を開発いたしました。これらの取り組みにより、加盟店ネットワークは17千店増の累計337千店に拡大いたしました。

また、自社CD・ATMネットワークにつきましては、提携先店舗をはじめ利用頻度の高い立地に増設したことにより、累計1,430台となりました。さらに、金融機関との提携ネットワークは13万台に拡大し、お客様の利便性を向上させることができました。

「サティ・ビブレカード」の発行に加え、クレジット利用の拡大が見込めるeコマースやサービス分野を中心に開発を強化した結果、大手ポータルサイトの「LYCOS」をはじめとする新たな提携カードを発行することができました。また、東北地方の有力企業の特典を集約した「イーノスカード」に仙台サンモール一番町商店街が加わり、より地域に密着した特典・サービスを充実することができました。

## 企業競争力の強化

中期経営計画の重点事項として取り組んでまいりました事務集中センターが本格的に稼働し、月間30万件のカード発行業務への対応や、カード会員さまへの電話応対など各種業務の量的拡大に対応するための体制が確立いたしました。今後、より一層のサービスレベルの向上に取り組むとともに、業務の一層の効率化をすすめてまいります。

また、審査・債権管理業務の集中化と、最新のITを活用したカード不正使用検知システムの再構築により、社会情勢の変化に迅速に対応した審査・管理業務運営が可能となりました。なお、多重債務者の発生を抑制するために、新たに個人信用情報機関テラネットへの加入を行いました。

## 国内子会社の概況

### ■保険代理店事業

保険代理店事業のエヌ・シー・エス興産(株)は、カードご利用明細書やダイレクトメール、インターネットを活用した保険の無店舗販売を強化いたしました。お客様のニーズに合わせた商品をご案内するために、カードの利用分析に取り組み、レスポンス率を向上させることができました。

この結果、営業収益は380百万円(前年同期比18.5%増)と順調に拡大しております。



### ■サービサー事業

サービサー事業のエー・シー・エス債権管理回収(株)は、これまでの携帯電話会社や通信販売会社などの小口再建回収の実績を武器に営業を推進し、公共料金、医療費、受信料金といった新たな分野での業務拡大を行うことができました。

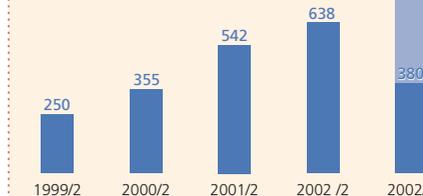
この結果、営業収益は307百万円(前年同期比25.0%増)と順調に拡大しております。



### エヌ・シー・エス興産

営業収益の推移

(単位:百万円)



### エー・シー・エス債権管理回収

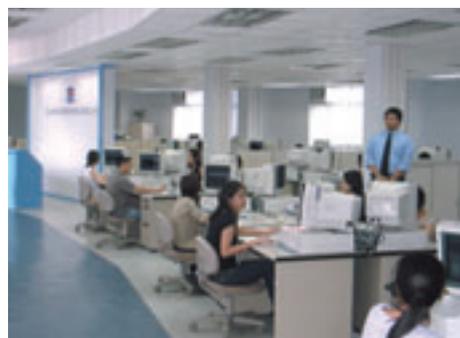
営業収益の推移

(単位:百万円)





香港 AeON-SPOT



シンセンのコールセンター



マレーシアでの個品あっせん事業

## 海外事業の概況

### ■香港での事業

イオンクレジットサービス(香港)(AEON CREDIT SERVICE (ASIA) CO., LTD.)は、景気低迷に加え、失業率の増加による自己破産の急増など大変厳しい経営環境となりました。

このような環境の中で、より安全な債権を確保するため、イオンのショッピングセンター内での会員募集の強化に特化し、4万人の新規会員の会員獲得を行いました。

また、債権管理部門の強化といたしまして、ローコスト運営体制が構築できているシンセンコールセンターに債権管理業務を集中させるとともに、人員配置の見直しを行い、途上与信管理強化に取り組みました。さらに、営業拠点を統廃合し、無人店舗化を進めコスト削減に努めました。

これらの諸施策を講じたことにより、営業収益は415百万香港ドル(前年同期比5.7%減)を確保することができました。

### ■マレーシアでの事業

イオンクレジットサービス(マレーシア)(ACS CREDIT SERVICE (M) SDN. BHD.)におきましては、デイリーファームグループが展開する大手スーパージャイアントをはじめ、加盟店ネットワークを2,750店に拡大いたしました。また、新たな取り組みとして、モーターバイクの個品あっせん事業を開始いたしました。

この結果、営業収益は15百万マレーシアリングgit(前年同期比20.0%増)と順調に拡大しております。

### ■拡大するアジアでのネットワーク

今後の海外事業への展開として、日本、香港、タイの上場会社をネットワークの起点とし、中国の広州をはじめとする、新たな地域での事業の可能性調査や、支店開設に取り組み、当社のアジアでのネットワークを拡大させてまいります。

## 環境保全・社会貢献活動

当社は、これまで環境保全につながる取り組みとして、チャリティ機能付カードや「ときめきポイント」を通じた寄付による森林保護の助成に取り組んでまいりました。また、環境保全活動を継続的に推進するため、全事業所を対象に認証取得しております「環境ISO14001」の更新を行い、従業員の意識向上に努めております。

社会貢献活動につきましては、日本点字図書館への点字図書とテープ図書の寄贈、従業員による社会福祉施設の季節行事参加などのボランティア活動に継続して取り組むとともに、「イオンマーケット」(<http://www.aeonmarket.com>)で行っております社会福祉施設の活動紹介、自主生産商品販売支援を拡大し、その輪を広げることができました。

また、イオン環境財団、イオン1%クラブを通じて、環境省の活動に賛同して取り組む「イオンこどもエコクラブ」、地域の子供たち参加型エコロジューミュージカル「瓶ヶ森の河童(かめがもりのしばてん)」の公演などに積極的に取り組みました。

これらの取り組みにつきましては、会員誌「MOM」を通じて、カード会員さまへの告知を行い、当社の環境保全活動、社会貢献活動のご紹介を行っております。

今後も当社は、環境保全活動、社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。



社会福祉施設でのボランティア活動



「瓶ヶ森の河童」の公演



カンボジアでの学校建設支援キャンペーン

# 中間連結財務諸表の概要

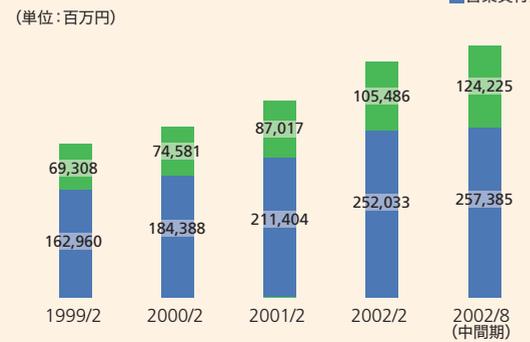
## 総資産の推移



## 株主資本の推移



## 営業債権の推移 (連結)



## 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

資産の部	前中間期	当中間期	前期
	(2001年8月20日現在)	(2002年8月20日現在)	(2002年2月20日現在)
流動資産	341,881	401,725	376,818
現金及び預金	12,557	14,169	16,169
割賦売掛金	93,242	124,225	105,486
営業貸付金	232,664	257,385	252,033
その他	11,009	16,102	12,225
貸倒引当金	△ 7,592	△ 10,156	△ 9,095
固定資産	15,775	18,476	17,130
有形固定資産	6,427	7,631	7,520
無形固定資産	2,810	2,250	2,963
投資その他の資産	6,538	8,594	6,646
資産合計	357,657	420,202	393,949
負債の部			
流動負債	103,069	138,823	126,600
買掛金	29,268	33,612	30,440
短期借入金	24,442	25,771	30,447
1年以内返済予定の長期借入金	15,602	32,883	24,362
コマーシャル・ペーパー	22,000	33,000	29,000
その他	11,756	13,556	12,349
固定負債	176,676	190,200	179,462
社債	25,000	42,820	25,000
長期借入金	150,848	145,759	153,032
その他	827	1,621	1,429
負債合計	279,745	329,024	306,062
少数株主持分	8,043	9,585	10,407
資本の部			
資本金	15,466	15,466	15,466
資本剰余金	17,046	17,046	17,046
利益剰余金	36,301	47,251	42,762
その他有価証券評価差額金	849	1,793	967
為替換算調整勘定	204	46	1,242
自己株式	△ 0	△ 9	△ 6
資本合計	69,867	81,592	77,479
負債、少数株主持分及び資本合計	357,657	420,202	393,949

## 中間連結損益計算書

(単位: 百万円)

経常損益の部	前中間期	当中間期	前期
	(2001年2月21日から2001年8月20日まで)	(2002年2月21日から2002年8月20日まで)	(2001年2月21日から2002年2月20日まで)
営業収益	40,632	48,271	85,993
総合あっせん収益	6,692	9,049	14,388
個品あっせん収益	2,257	3,134	4,799
融資収益	28,109	32,159	59,489
融資代行収益	1,707	1,766	3,515
その他収益	1,865	2,161	3,799
営業費用	29,828	36,682	62,158
営業利益	10,803	11,588	23,835
営業外収益	79	69	664
営業外費用	581	186	652
経常利益	10,301	11,471	23,847
特別損益の部			
特別利益	—	206	—
特別損失	533	399	696
税金等調整前中間(当期)純利益	9,768	11,277	23,150
法人税等	3,953	4,672	9,222
少数株主利益	1,014	633	1,715
中間(当期)純利益	4,800	5,971	12,213

## 中間連結剰余金計算書

(単位: 百万円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	(2001年2月21日から2001年8月20日まで)	(2002年2月21日から2002年8月20日まで)	(2001年2月21日から2002年2月20日まで)
資本剰余金期首残高	17,046	17,046	17,046
資本剰余金増加高	—	—	—
資本剰余金減少残高	—	—	—
資本剰余金中間(期末)残高	17,046	17,046	17,046
利益剰余金期首残高	32,739	42,762	32,739
利益剰余金増加高	4,800	5,891	12,213
利益剰余金減少高	1,238	1,482	2,189
利益剰余金中間(期末)残高	36,301	47,171	42,762

## 営業収益の推移



## 経常利益の推移



## 中間(当期)純利益の推移



## 中間単独財務諸表の概要

### 営業債権の推移(単独)

(単位:百万円)



### 直接調達比率

(単位:%)



### 長期固定借入比率

(単位:%)



### 単独貸借対照表

(単位:百万円)

	前中間期 (2001年8月20日現在)	当中間期 (2002年8月20日現在)	前期 (2002年2月20日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	270,753	314,498	288,090
現金及び預金	7,577	8,306	10,604
割賦売掛金	66,770	86,135	69,422
営業貸付金	192,862	213,855	205,677
その他	9,113	12,783	8,704
貸倒引当金	△5,570	△6,581	△6,318
固定資産	15,307	17,905	15,818
有形固定資産	4,272	4,913	4,669
無形固定資産	2,504	1,870	2,577
投資その他の資産	8,531	11,121	8,571
資産合計	286,060	332,404	303,909
<b>負債の部</b>			
流動負債	79,248	106,799	94,265
買掛金	27,568	31,906	28,461
短期借入金	7,074	3,924	5,459
1年以内返済予定の 長期借入金	12,900	26,530	21,030
コマーシャル・ペーパー	22,000	33,000	29,000
その他	9,705	11,438	10,314
固定負債	144,280	152,714	141,665
社債	25,000	40,000	25,000
長期借入金	118,530	111,600	115,900
その他	750	1,114	765
負債合計	223,529	259,514	235,931
<b>資本の部</b>			
資本金	15,466	15,466	15,466
資本剰余金	17,046	17,046	17,046
利益剰余金	29,198	38,588	34,484
その他有価証券評価差額金	820	1,798	987
自己株式	—	△9	△6
資本合計	62,531	72,890	67,978
負債及び資本合計	286,060	332,404	303,909

### 単独損益計算書

(単位:百万円)

	前中間期 (2001年2月21日から 2001年8月20日まで)	当中間期 (2002年2月21日から 2002年8月20日まで)	前期 (2001年2月21日から 2002年2月20日まで)
<b>経常損益の部</b>			
営業収益	30,046	35,559	63,429
総合あっせん収益	5,645	7,736	12,107
個品あっせん収益	58	50	106
融資収益	21,505	24,776	45,385
融資代行収益	1,713	1,770	3,527
その他収益	1,124	1,225	2,301
営業費用	21,878	26,003	44,525
営業利益	8,168	9,556	18,904
営業外収益	384	414	619
営業外費用	527	88	521
経常利益	8,025	9,881	19,002
<b>特別損益の部</b>			
特別利益	—	206	—
特別損失	533	399	836
税引前中間(当期)純利益	7,491	9,688	18,165
法人税等	3,435	4,106	7,872
中間(当期)純利益	4,056	5,581	10,293
前期繰越利益	5,325	7,212	5,325
中間配当額	—	—	951
中間(当期)未処分利益	9,381	12,793	14,667

### 配当金

1株当たりの中間配当金 **25円**

当中間期の配当金につきましては、1株につき25円を実施させていただきました。なお、前期の中間配当金は1株につき20円を実施しておりますので

**5円の増配**となっております。なお、2003年2月期の配当金につきましては、期初に予定しておりました25円から30円に増配し、中間配当金

25円と合わせ年間配当金 **55円**とさせていただきます。予定であります。

### 単独損益計算書の概要

【営業収益】355億59百万円(前年同期比18.3%増)  
当初計画346億00百万円を上回ることができました。

「イオンフェスティバル」や「ワンデーパスポート」など加盟店との共同企画によるカード利用の促進や新しい提携カードである「サティ・ビブレカードの推進」などに取り組みました。  
業界No.1の自社CD・ATMネットワークをさらに拡大し、利用頻度の高い提携先店舗を中心に設置いたしました。併せて、金融機関等との提携ネットワークの拡大にも努めております。

このような、取り組みの結果、引き続き増収を達成しております。

【経常利益】98億81百万円(前年同期比23.1%増)  
当初計画92億00百万円を上回ることができました。

【中間(当期)純利益】55億81百万円(前年同期比37.6%増)  
当初計画51億50百万円を上回ることができました。

## 株式の状況 (2002年8月20日現在)

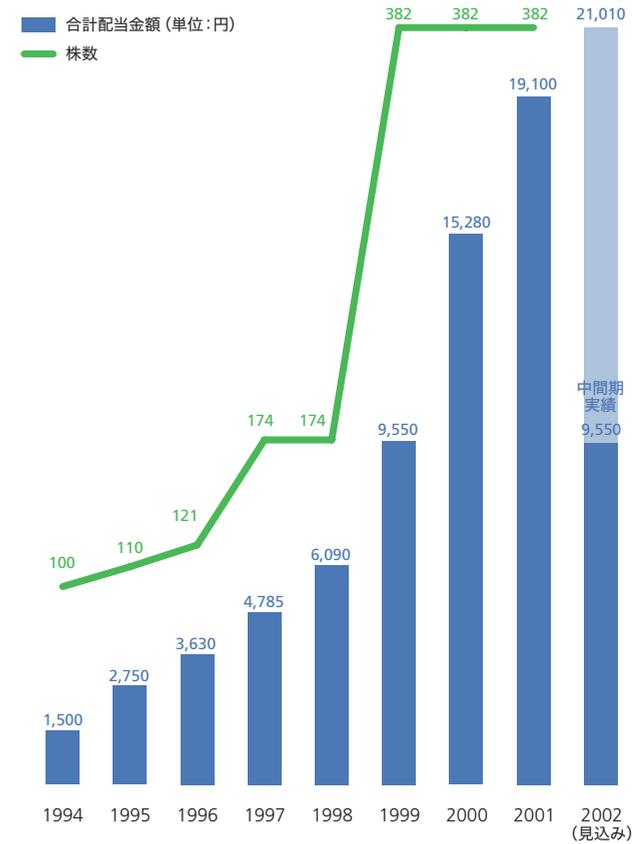
- 株主数 ..... 4,038名
- 会社が発行する株式の総数 ..... 180,000,000株
- 発行済株式総数 ..... 47,565,760株
- 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
イオン株式会社	21,058	44.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,235	4.70
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,143	4.51
みずほ信託退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託	1,128	2.37
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	1,094	2.30
マックスバリュ西日本株式会社	802	1.69
ミニストップ株式会社	694	1.46
包括信託受託者 三井アセット信託銀行 (委託者 株式会社三井住友銀行)	650	1.37
日本生命保険相互会社(特別勘定年金口)	642	1.35
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	603	1.27

### 株式分割の状況

1995年4月10日付	1 : 1.1	無償分割
1996年4月10日付	1 : 1.1	無償分割
1997年4月10日付	1 : 1.2	無償分割
1998年2月17日付	1 : 1.2	無償分割
1999年4月8日付	1 : 1.1	無償分割
2000年2月10日付	1 : 2	無償分割

### 店頭公開時(1994年12月)に 当社株式100株を購入した場合の配当金の推移



## 会社データ

- 商号 ..... イオンクレジットサービス株式会社
- 証券コード ..... 8570
- 上場証券取引所 ..... 東京証券取引所市場第1部
- 本店 ..... 東京都千代田区神田錦町  
一丁目1番地
- 電話番号 ..... (03) 5281-2030 (代表)
- URL ..... <http://www.aeon.co.jp/>
- 設立 ..... 1981年6月20日
- 資本金 ..... 154億6,650万円
- 従業員数 ..... 716人

### 取締役および監査役 (2002年5月15日現在)

取締役 会長	浅野和郎
代表取締役社長	森美樹
常務取締役	浅井啓志
常務取締役	神谷和秀
取締役	上山政道
取締役	河田和彦
取締役	高山孝一
取締役	近藤安彦
取締役	斉藤達也
取締役	清永崇司
常勤監査役	葛西謙
監査役	横井賢
監査役	木村洋一
監査役	斎藤稔

## 株主メモ

- 決算期 ..... 毎年2月20日
- 定時株主総会 ..... 毎年5月20日までに実施
- 名義書換代理人 ..... 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号  
みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 ..... 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
本店証券代行部
- お問い合わせ先 ..... 〒135-8722  
郵便物送付先 ..... 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社
- 証券代行部 ..... 証券代行部  
電話 (03) 3642-4004 (代表)
- 同取次所 ..... みずほ信託銀行株式会社  
全国各支店
- みずほアセット信託銀行株式会社 ..... みずほアセット信託銀行株式会社  
本店および全国各支店
- みずほインベスターズ証券株式会社 ..... みずほインベスターズ証券株式会社  
本店および全国各支店
- 1単元の株式の数 ..... 100株
- 公告掲載新聞 ..... 日本経済新聞



## イオンクレジットサービス株式会社



木を植えています

私たちはイオンです

ISO14001、ISO9001 認証取得



**JAB**  
QS, EMS  
Accreditation  
R009, RE006



**JQA**  
CERTIFIED  
MANAGEMENT SYSTEM  
ISO 9001  
ISO 14001  
JQA-QM7708  
JQA-EM1689

本紙は非木材紙・ケナフを使用しています。